

I.1 点なので大きさも形もなく、質量のみが唯一の個性。
あらゆる物質は情報の縮を通して質点と扱うことが可能。

I.2 無数にある物理的要素を、質量のみに絞ることができるので運動を普遍的に記述することが可能。

I.3 普遍性 ... 同じ実験であっても場所や日時が異なれば、気候や風向きなどで違った結果が出る。したがって普遍性に注意しなければならない。物体の落下一つとっても無数の法則がうまってしまう。

多様性 ... しかし、実際に物理法則を応用する段になると多様な物理現象にも目を向けておかなければならない。例えば風の影響を除外して計算しては、ロケットも飛ばせない。

自分が何をしたいかによって、どの程度普遍性を持たせるかを考えなくてはならない。

I.4 量子力学は、ミクロな階層について論じるためにうまれた学問である。電車は量子とは関係なく、連続的に運動できると考えて支っかえたい。したがって量子力学を持ち出す必要はない。対象の階層によってその工の種類を見極めるべきである。

210-31日はとしかたを間違えました。

裏表に持って来

$$\text{II.4} \quad (1+i)^{1000} = (\sqrt{2})^{1000} (\cos 250\pi + i \sin 250\pi) \\ = 2^{500}.$$

$$(1+i\sqrt{3})^{1000} = 2^{1000} \left(\cos \frac{1000\pi}{3} + i \sin \frac{1000\pi}{3} \right) \\ = 2^{1000} \left(-\frac{1}{2} + i \frac{\sqrt{3}}{2} \right) \\ = -2^{999} (1 + i\sqrt{3}).$$

$$\text{II.5} \quad \sin \theta = \frac{e^{i\theta} - e^{-i\theta}}{2}$$

$$\cos \theta = \frac{e^{i\theta} + e^{-i\theta}}{2}$$

$$\tan \theta = \frac{e^{i\theta} - e^{-i\theta}}{e^{i\theta} + e^{-i\theta}}$$

$$\text{II.6} \quad e^{i\theta} \times e^{i\varphi} = (\cos \theta + i \sin \theta)(\cos \varphi + i \sin \varphi) \\ = \cos \theta \cos \varphi - \sin \theta \sin \varphi + i (\sin \theta \cos \varphi + \cos \theta \sin \varphi)$$

$$e^{i(\theta+\varphi)} = \cos(\theta+\varphi) + i \sin(\theta+\varphi).$$

$$a + bi = a' + b'i \quad \longrightarrow \quad a = a' \quad \wedge \quad b = b'$$

$$\text{すなわち} \quad \cos(\theta+\varphi) = \cos \theta \cos \varphi - \sin \theta \sin \varphi.$$

$$\sin(\theta+\varphi) = \sin \theta \cos \varphi + \cos \theta \sin \varphi.$$

$\sin \theta \cos \varphi + \cos \theta \sin \varphi$, $\cos \theta \cos \varphi - \sin \theta \sin \varphi$ に
II.5の結果を代入して得られる。

II.7. $z = x + iy$ とおくと.

$$e^{x+iy+2\pi i} = e^x \cdot e^{i(y+2\pi)}$$

$$= e^x (\cos(y+2\pi) + i \sin(y+2\pi))$$

$$= e^x (\cos y + i \sin y)$$

$$= e^{x+iy}$$

よって e^z は周期 $2\pi i$.

II.8. $z = 0 + 2n\pi i \quad (n \in \mathbb{N})$.

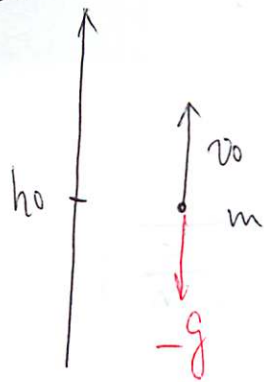
III.1. $x_1 = x_1(t)$, $x_2 = x_2(t)$ が $\ddot{x} = 0$ の解であることができる、 ~~$C_1 x_1 + C_2 x_2$ もまた $\ddot{x} = 0$ に~~ $x(t) = C_1 x_1 + C_2 x_2$ もまた $\ddot{x} = 0$ にたがうことができる。

実際、 $x_1(t) = C_1 t$, $x_2(t) = C_2$ とおくと、

$x(t) = C_1' t + C_2'$ もまた $\ddot{x} = 0$ を満たす解となる。

III.2. III.1 でのように、 $x_1 = C_1 t$, $x_2 = C_2$ とおくと、 $x = C_1 x_1 + C_2 x_2 = C_1' t + C_2'$ もまた $\ddot{x} = 0$ の解となるので、重ね合わせの原理は成り立っている。

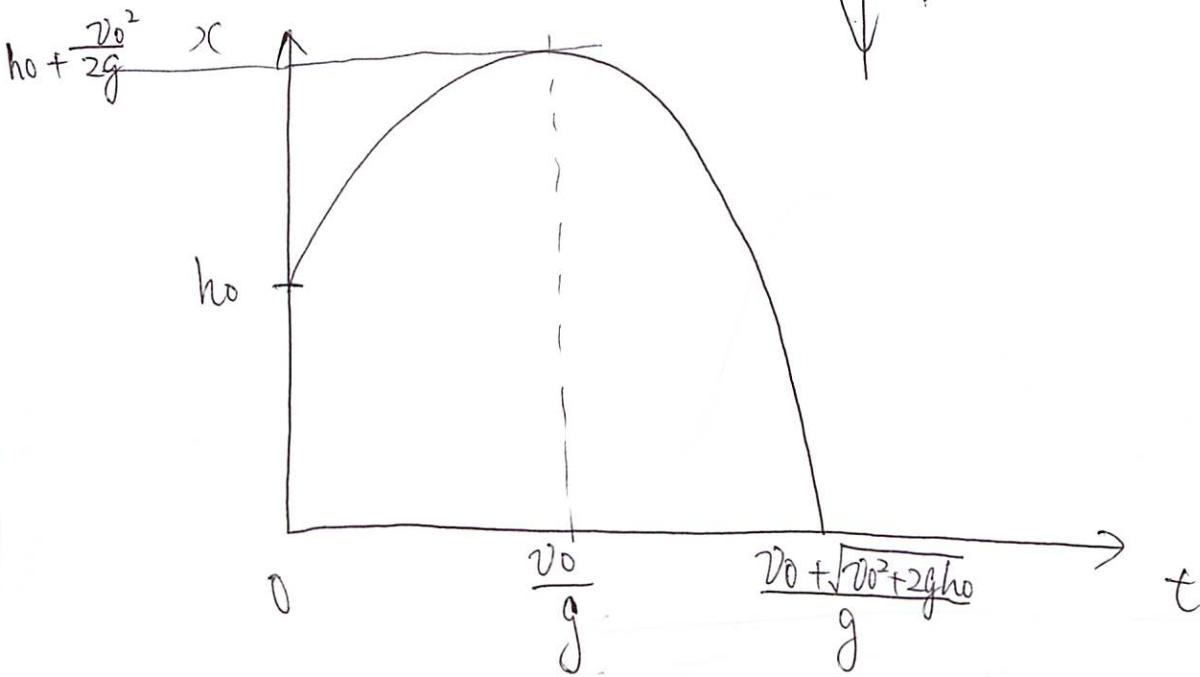
III.3.



$$\ddot{x} = -g$$

$$\dot{x} = -gt + v_0$$

$$x = -\frac{1}{2}gt^2 + v_0t + h_0$$



III.4. ~~$m\ddot{x} = -k(x-h) - mg$~~ ~~ただし h は質点の位置~~

$$0 = k(l-h) - mg$$

ただし l はバネが自然長のときのおりの位置

Ⅱ5. 高さ h_0 から $l = \frac{mg}{k}$ の位置を原点と取り.

~~$$m \ddot{x} = -kx$$~~

$$m \ddot{h}(t) = -k h(t)$$

$$h(t) = \frac{\dot{h}(0)}{\omega} \sin \omega t + h(0) \cos \omega t \quad (\omega \equiv \sqrt{\frac{k}{m}}).$$

Ⅱ6. Ⅱ5 で得られた式に $h(0) = \frac{mg}{k}$, $\dot{h}(0) = 0$ を代入すると

$$h(t) = \frac{mg}{k} \cos \omega t$$

